

# ATEM Newsletter



発行 映画英語教育学会  
住所 〒169-0075  
東京都新宿区高田馬場  
4-3-12アルク高田馬場4F  
TEL 03-3365-0182  
FAX 03-3360-6364  
E-mail [office@atem.org](mailto:office@atem.org)  
郵便番号 00820-3-1477

支部・委員会活動報告特集

February, 2016

映画英語教育学会 / The Association for Teaching English Through Movies

## An Appealing Array of Academic Activities Lies Ahead of Us!

ATEM President **Makoto KURATA**  
(Kyoto University of Foreign Studies)  
映画英語教育学会 会長  
倉田 誠 (京都外国語大学)



Ladies and Gentlemen,

I would like to join you in celebrating the 30th issue of our newsletter. This biannual publication, needless to say, is designed to keep all the ATEM members apprised of what we are up to as an academic association. I thank the members of our Public Relations Committee for working

their fingers to the bone trying to put together such interesting and informative periodicals for all of us.

Now I would like to humbly enumerate on this front page a dazzling array of academic activities for the year 2016, so that you can get ready to participate in this year's pedagogical powwows. First of all, I would like to remind you that we will be hosting our 22nd National Convention at Waseda University on Saturday July 9th. The theme for the convention is "Refining Sensitivity to English Usage and Culture Through Visual Media." The special Keynote Speaker who will address us at the conclusion of the thrilling whirlwind of our one-day academic event is Professor Mark Petersen (Meiji University), a highly acclaimed author of many down-to-earth English reference books and paperbacks. I believe without a shadow of a doubt that Mr. Petersen will cut across the interests of many people in the audience. Equally attractive and attention-getting are two more special speakers, who will be pairing up to enlighten and entertain many attendees in the morning. One is Professor Jennifer Barker (Kyoto University of Foreign Studies), and the other is Professor

Jeff Berglund (Kyoto University of Foreign Studies). Ms. Barker is a Fulbright Scholar and a Visiting Professor at my university. Her research field is cinema studies. Mr. Berglund is a special advisor for ATEM and a well-known college professor and media personality. These two main presentations for the 7/9 convention are contrastively mesmerizing, as Professor Petersen will be speaking about practical linguistic matters, whereas Professor Barker and Professor Berglund will focus on cultural affairs through audio-visual media (see the next page for more information). May I suggest that both of the two central presentations are just too valuable to miss? May I also suggest that you consider sharing with all the other participants your own recent insights as ATEM scholars and educators? Let us all pick each other's brains at this monumental conference which we will hold in one of Japan's key academic hubs!

Second of all, I would like to call your attention to what is going to take place at Kookmin University in Seoul, Korea in September. A grand international media event "The SAI 2016 International Conference" will start on 9/23 and run through 9/25. The conference theme is "Interactions With Media: Intersecting the world of language and learning on-and-offline." As you might have cleverly guessed, the acronym "SAI" stands for STEM, ATEM, and ICEM (International Council for Educational Media), and so we are not one of the guests but one of the three host organizations for the conference. I would like to take this opportunity to encourage as many ATEM members as possible to partake in this pioneering global media affairs opportunity (see p. 5 for details).

Last but not least, please also allow me to direct your attention to an impressive array of 2016 ATEM regional chapter events which are to be announced soon on our Homepage. For now, kindly go to the regional chapter pages (pp. 3-4) and take in some of the unique activities already launched by our five chapters. Thank you for your kind attention.

# 第 22 回 映画英語教育学会(ATEM)全国大会

## The 22nd ATEM National Convention

開催日:平成28年7月9日(土) / Date: July 9th (Sat), 2016

会場:早稲田大学 22 号館 / Waseda University Bldg#22

テーマ:映画で日本人の英語と心を磨く

Theme: Refining Sensitivity to English Usage and Culture through Visual Media

本年7月9日、東京の早稲田大学にて第 22 回 ATEM 全国大会が開催されます。今回の大会特別講演者は、近代日本文学の研究者であり、ベストセラー『日本人の英語』など多くの英語教育書を執筆しておられるマーク・ピーターセン先生(明治大学)です。この他にも、TV でおなじみのジェフ・バーグランド先生(京都外国語大学)とフルブライト・スカラーのジェニファー・バーカー先生による特別シンポジウム、会員による研究発表やポスターセッションが予定されています。皆さんも初夏の土曜日、都の西北・早稲田の杜で、有意義な一日を過ごしませんか。 ※「会員の著書展示コーナー」もあります。

### ■プログラム ※詳細は発表者決定後に本部ホームページへ掲載

時間	項目
9:15	受付開始
10:00-10:10	開会式
10:15-10:45	STEM特別発表
10:50-12:00	特別シンポジウム ※右記参照
12:00-13:00	昼食・休憩
(12:05-12:25)	総会(会員のみ)
(12:30-14:30)	ポスターセッション
13:00-13:57	シンポジウムA(1 教室)
13:00-13:27	発表 1(4 教室)
13:30-13:57	発表 2(4 教室)
14:00-14:27	発表 3(5 教室)
14:30-15:57	シンポジウム B,C,D(3 教室)
14:30-14:57	発表 4(2 教室)
15:00-15:27	発表 5(2 教室)
15:30-15:57	発表 6(2 教室)
16:05-17:20	特別講演 ※右記参照
17:20-17:25	閉会式
17:50-19:50	懇親会

\*\*\* 事前参加申込受付期限:6月9日(木) \*\*\*

本部ホームページ <http://www.atem.org> の「全国大会」のページよりお申し込みください

事前申込者参加費:会員¥500 非会員¥1,000

(当日参加費:会員¥1,500 非会員¥2,000)・学生無料

### 【発表応募方法】

本部ホームページ <http://www.atem.org> の募集要項に従い、会員専用ページ(本号最終頁参照)よりお申し込みください。\*English presentations will be welcomed.

発表応募締切:4月10日(日)

応募資格:2016 年度分会費を納入済の ATEM 会員

### ■特別講演

#### 『カサブランカ』で英語感覚を養う

*Casablanca: Irony, Sarcasm, and Cynical Humor in English*

講師:Mark Petersen 先生(明治大学)



ピーターセン先生は、1980 年にフルブライト留学生として来日されましたが、その後、明治大学の教員として多くの日本人に英語を教え、また幾多の優れた英語教育書を出版してこられました。今回の特別講演では、その豊富な教育経験に基づき、映画『カサブランカ』の英語表現上の魅力と、英語教育への活用法についてお話し頂きます。

【講師プロフィール】アメリカ・ウィスコンシン州生まれ。コロラド大学で英米文学、ワシントン大学大学院で日本近代文学を専攻。1980 年、フルブライト留学生として来日。現在、明治大学教授。著書に『日本人の英語(正・続)』『心にとどく英語』『実践 日本人の英語』(以上岩波新書)『表現のための実践ロイヤル英文法』(旺文社)など多数。特に『日本人の英語』は、累計 70 万部を超えるベストセラー。

### ■特別シンポジウム

#### 映画で育む、異文化へのまなざし

Raising Intercultural Awareness through Movies

パネリスト:

Jeff Berglund 先生(ATEM 特別顧問・京都外国語大学教授)

Jennifer Barker 先生(京都外国語大学客員研究員)

一般に、コミュニケーションの 90%以上は音声を伴わないノン・バーバルなものだと言われてはいますが、それは文化的な理解の上に成り立つものです。

今回の特別シンポジウムでは、タレントとしてもご活躍のバーグランド先生と、映画学がご専門のバーカー先生が、映画を材料に、豊かなコミュニケーションの基礎となる異文化理解について提言します。



## ■支部だより■

### [北海道支部]

◆北海道支部では2015年4月から秋山敏晴先生（北海道科学大学）より小林敏彦（小樽商科大学）が支部長を引継ぎ、更なる支部発展をめざした活動を続けております。月例研究会では当番制で教材・授業案のミニ発表を行っていますが、これを基に、昨年の全国大会には支部企画4名、研究発表1名、ポスターセッション2名と、支部発足史上最多の10名を送り出しました。10月には初の試みとして、「医療英語ワークショップ」を開催、日頃より医療英語教育に関する4名の会員が発表しました。

◆1月10日（日）には、第5回北海道支部大会を小樽商科大学札幌サテライトにて開催しました。今回は、地元支部会員はもとより東日本、西日本、九州と複数支部からの会員参加に加え、教員、研究者、学生や一般の方々

合わせて支部大会最多の63名の参加がありました。西日本支部からは会長を含む3件、東日本支部からは2件を含む全11件もの発表を軸に、



英語学習相談、ポスターセッション、教材シェア、そして会員著書や出版社2社の展示も行われるという、たいへん充実した内容でした。これらはすべて1つの大教室で行われ、朝10時から午後5時までずっと参加者全員が同じ空間を共有し、楽しく有意義なひと時を過ごすことができました。当日はインターネット入会窓口も設けたことが功を奏し、中学1年生を含む6名の入会がありました。来年は、さらに多くの方々が全国から駆けつけてくださることを願っております。

（支部長：小林 敏彦）

### [東日本支部]

◆2015年11月29日（日）、麗澤大学東京研究センターにおいて、第6回東日本支部大会を開催しました。今回は講演を小林敏彦北海道支部長（小樽商科大学）にお願

いしました（演題：『オーセンティックなリスニング教材開発：データ収集からタスク作成まで』）。身近にあるオーセン

ティックな英語の音をく費用をかけずに教材として活用するのが小林先生流。すぐに使える情



講演中の小林先生

報が満載で、とても有意義な時間を過ごしました。

支部会員による研究発表は6つ。「映画と文学・文化研究」「映画英語教育研究」「映画と言語研究」の3セッション構成で行いました。また、倉田誠 ATEM 会長（京都外国語大学）および藤枝善之 ATEM 専務理事（京都外国語大学・短期大学）もご参加くださいました。

◆吉田雅之先生（早稲田大学）の任期満了による退任にともない、新支部長に渡邊信（麗澤大学）が、副支部長に日影尚之先生（麗澤大学）と大月敦子先生（相模女子大学）が、そして事務局長に嘉来純一先生（早稲田大学本庄高等学院）がそれぞれ就任しました。

◆7月9日に早稲田大学で開催の本年度全国大会を当支部が担当します。支部会員一同気を引き締めて成功を期したいと思います。その他の主な予定は以下の通りです。

（場所は全て麗澤大学東京研究センター）：

春季例会：2016年3月6日（日）

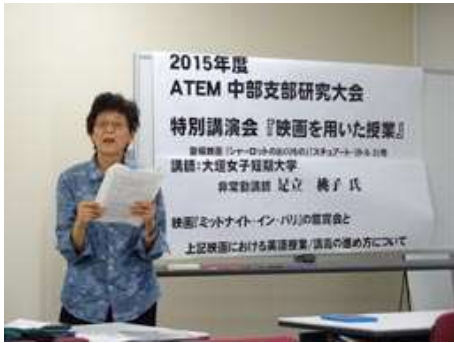
夏季例会：2016年5月15日（日）

第7回支部大会：2016年12月4日（日）

（支部長：渡邊 信）

### [中部支部]

◆2015年10月24日（土）、中部支部大会を金城学院サテライトにおいて開催しました。今年度は、趣向を変えて、講演会と企画（映画鑑賞会とディスカッション）の2本柱で行いました。講演会は、大垣女子短期大学の足立桃子先生お招きし、『映画を用いた授業』をテーマとして、豊富な経験による実践的な内容をご発表いただきました。初の試みである企画では、ウディ・アレン監督の『ミッドナイト・イン・パリ』を用い、まず紹介者の松葉明先生（名古屋市立あずま中学校）から解説をいただき、鑑賞後は、授業への導入、授業での扱い等につい



特別講演の様子

てディスカッションを行いました。参加者からも多くの意見や提案があり、今後の参考にもなる好評な企画となりました。

◆運営委員会を行い、運営会組織改編と支部紀要の発行について話し合いました。また、研究を中心に活動する方向付けを行うという目的を改めて確認しました。今年度は、研究活動の活性化と新規会員の開拓を目標としております。詳細は支部 HP を参照ください。

(支部長：諸江 哲男)

## [西日本支部]

◆第13回西日本支部大会を2015年11月14日(土)に大阪工業大学サテライトキャンパス(うめきたナレッジセンター)で開催しました。大会には約60名、大会後の交流会には25名の参加者を以って盛会に終わりました。シンポジウムは『アナと雪の女王』(*Frozen*, 2013)

徹底活用法」と題して、ジェンダー論の視点から藤倉なおこ先生(京都外国語大学)が、コミュニケーション論の視点から北本晃

治先生(帝塚山大学)が、英語学の視点から飯田泰弘先生(大阪大学・院生)が活用法を提案されました。特別講演では、元山千歳先生(京都外国語大学)が「W・ディズニーのメディア戦略ーネオ(*Matrix*)とルーシー

(*Lucy*)の日常」と題してご発表頂きました。研究



発表では深津勇仁先生(日本経済大学)、穂寛美先生(京都産業大学)、ルッケル瀬本阿矢先生(京都大学)、さらにGraham Jones先生(Ten Sentences)、Walter Klinger先生(滋賀県立大学)がご発表されました。また、朝日出版社、シードラーニング、成美堂、セングージラーニング、ピアソン・ジャパンの5社にご出展をお願いし、朝日出版社とピアソン・ジャパン様には賛助会員発表としてメディアを活用した新刊テキストについてご発表いただきました。大会のプログラムと写真は支部 HP「支部活動」からご覧いただけます。

◆1月10日(日)の第5回北海道支部大会では、西日本支部から4人の会員が参加し、支部間の学术交流を図りました。(支部長：横山 仁視)

## [九州支部]

◆2015年9月13日(日)、第17回九州支部大会を福岡医療短期大学において開催しました。吉村圭先生(鹿児島女子短大)と藤山和久先生(熊本高専)が担当した例年恒例の企画のほか、高瀬、山下友子先生(九州大学)、福田浩子先生(福岡大学)の「Trivia と Goofs を利用した英語授業の活性化について」と題したシンポジウムを行いました。この他、松中完二先生(久留米工業大学)の「洋画の台詞における人名の意味理解と英語教育の可能性について」、村田希巳子先生(西南女学院大学)の「*Frozen* の主題歌研究と作品分析」、藤山和久先生(熊本高専)の

「映画を活用した英語授業の取り組み」、そして八尋春海先生(西南女学院)の『サイモン・バーチ』に見るアメリカ社会」等の研究発表がなされて、大会は盛況のうちに幕を閉じました。

◆2015年12月12日(土)には、倉田会長を囲んで、九州支部役員との懇親会を兼ねたミーティングを開催し、今後の支部としての活動について語り合いました。

◆過日開催の運営委員会にて、2016年度の九州支部大会は10月開催予定で準備を進めることとなりました。

(支部長：高瀬 文広)



## ■委員会だより■

### 【国際交流委員会】

#### STEM Journal 掲載論文について

STEM Journal Vol.16/No.4(2015年11月30日発行)に、ATEM 会員による下記の論文が掲載されました。

- Jeff Berglund 先生 : The Power of Nonverbal Chunks in Language Teaching (pp.1-23)
- William Figoni 先生・井村誠先生 : Finding Your Voice—Introducing the Drama Method in the Classroom— (pp.179-195)
- 山下友子先生・冬野美晴先生 : Public Speeches With Competent Speakers — Speech Pauses, Head Movements, and Lexical Choices— (pp.215-231)

STEM Journal 掲載論文は以下のサイトで閲覧することができます。

[http://www.stemedia.co.kr/modules/dynamic\\_form/dyna\\_list.html?id=sub0303&id=sub0303](http://www.stemedia.co.kr/modules/dynamic_form/dyna_list.html?id=sub0303&id=sub0303)

### 第20回 STEM 国際大会

#### (SAI International Conference 2016) について



ATEM の姉妹学会である STEM (The Society for Teaching English through Media) の第20回国際大会は、2016年9月23日(金)～25日(日)に、ソウルの Kookmin University (国民大学校) で開催されます。今年度は STEM の創立20周年を記念して、ATEM はもちろん、提携学会の ICEM (International Council for Educational Media) が共催し、3団体合同で大々的に開催することになっています。参加国も韓国、日本、米国、英国、ドイツ、シンガポール、コロンビア、オーストラリアを含む非常に国際色豊かな大会となります。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

[SAI International Conference 2016 公式サイト](http://www.sai2016.com)

<http://www.sai2016.com>

(委員長：井村 誠)

### 【ICT 委員会】

#### 本部ホームページについて



2014年12月にATEMの本部ホームページがリニューアルされましたが、皆様のご協力で内容がさらに充実して参りました。掲載内容のバイリンガル化も進み、ATEMのアカデミックな活動内容を世界に発信できるようになっております。今後もICT委員会は、利便性の高いホームページの運用を目指して参ります。

(委員長：延原 みか子)

### 【会員管理委員会】

#### 会員専用ページ(会員管理システム)新機能について

この度、会員管理システムの充実を図るため、会員管理委員会が発足しました。

手始めに、ログイン画面より、会員個人の写真をダウンロードできる機能を準備しております。これまで全国大会で記録用に撮影していた特別講演、シンポジウム、研究発表等の写真は、広報誌掲載以外に活路が見出せずにいましたが、これにより写ったご本人にも有効活用いただけます。対象の写真は、ログインした会員個人のみが扱うことができ、対象外の写真は表示されないため、安心してお使いいただけます(図参照)。この機能は第22回全国大会撮影分より稼働を予定しています。



(委員長：新田 晴彦)

## 【紀要編集委員会】

### ATEM ジャーナル第 21 号について

最初に、『映画英語教育研究』第 21 号にご投稿下さった皆様にお礼申し上げます。ここ数年、安定した投稿数となっていることに委員一同、嬉しく思っています。

さて、紀要第 21 号への論文投稿数は 14 編でした。研究論文が 8 編、教育実践報告が 4 編、そして研究ノートが 2 編です。分野別では教育関連分野 6 編、言語関連 5 編、文化関連 3 編です。

例年の通り、各論文に対して 2 人の査読者により閲読が行われました。2 人の査読者のうちいずれかが掲載不可とした論文に対しては第 3 査読が行われ、修正後掲載可とするか、論文カテゴリーの変更を提案するかが検討されました。

こうしたプロセスを経て、最終的に第 21 号には総数 14 編（論文・実践報告 10 編、研究ノート 4 編）が掲載されることになりました。関係の皆様深く感謝申し上げます。今後とも査読者間での審査結果に大きなばらつきが出ないような基準作りを目指してまいります。

もう 1 点お知らせします。本学会のジャーナルは「紀要」という名称で発行されてきましたが、次号より名称を変更する予定です。「紀要」と名の付く論集への掲載論文は業績審査時に不利になることがあるためです。現在、委員会を中心に理事会で新名称を検討中です。

(委員長：塚越 博史)

## ● ATEM 論文リンク集 ●

CiNii で閲覧が可能な、ATEM 紀要『映画英語教育研究』掲載論文および研究報告は下記よりアクセスできます。ご活用ください。

<http://atem.org/doc/>

## 【大会運営委員会】

### 第 22 回 ATEM 全国大会について

本紙 P.2 にてご案内しておりますように、本年 7 月 9 日（土）、第 22 回 ATEM 全国大会が早稲田大学 22 号館にて開催されます。大会史上初の東京都内での開催です。特別講演者は、大ベストセラー『日本人の英語』その他の英語教育書・教養書を多数出版しておられる明治大学教授のマーク・ピーターセン先生。さらに、TV でおなじみのジェフ・バーグランド先生（京都外国語大学）と、フルブライト・スカラーのジェニファー・バーカー

先生による特別シンポジウムも予定されています。会場の運営は東日本支部の大会実行委員会（委員長：吉田雅之先生）が中心となって担い、本部の大会運営委員会（委員長：藤枝）がサポートします。かつてない大きな大会として成功を収められるよう、各支部・会員の皆様のいっそうのご協力をお願い致します。

(委員長：藤枝 善之)

## 2016年7月9日（土）開催 第22回ATEM全国大会 開催会場



## 早稲田大学 22 号館

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田1丁目7-14

[www.waseda.jp](http://www.waseda.jp)

全国大会の詳細は本部ホームページに掲載します。

<http://atem.org/> 第 22 回 atem 全国大会 /

※[http://atem.org](http://atem.org/) トップメニュー「全国大会」→「22nd National Convention」からアクセスできます。

※会員は全国大会の参加申し込みを本部ホームページ「会員専用ページ」から行ってください（本紙 P.8 参照）。

## 【広報委員会】

### 全国大会ポスター、フライヤーについて

本号へ情報提供、ご協力くださいました皆様に、まずは心からお礼申し上げます。

さて当委員会では 2014 年より大会運営委員会と連携し、ATEM Newsletter 春号の全国大会情報ページをもとに、全国大会宣伝ポスター、フライヤーとしてご利用いただける pdf 版、紙版の原稿作成を行っております。本年もご用意しますので、ぜひご活用ください。



(委員長：松田 愛子)

## ■書籍紹介

# Communicate in English with The Devil Wears Prada

『プラダを着た悪魔』で学ぶ  
コミュニケーション英語



Aline Brosh McKenna 著

角山照彦／Simon Capper 編著（松柏社、2016）

映画が始まって約 30 分、印象的なシーンが出てきます。自分の不勉強を棚にあげ、フィッティング中のミランダと周囲の様子を笑ったアンディに対して放たれたミランダのセリフです。

This...“stuff”? Oh, okay. I see. You think this has nothing to do with you. You go to your closet and you select, I don't know, that lumpy blue sweater, for instance, because you're trying to tell the world that you take yourself too seriously to care about what you put on your back, but what you don't know is that that sweater is not just “blue.” It's not turquoise. It's not lapis. It's actually cerulean. And you're also blithely unaware of the fact that in 2002, Oscar de la Renta did a collection of cerulean gowns, and then I think it was Yves Saint Laurent, wasn't it, who showed cerulean military jackets? I think we need a jacket here.

職業に真剣に向き合うとはどういうことかを考えさせられる秀逸なセリフです。就職を始め、卒業後の生き方を考えなければならない大学生に観てもらおうことの意義を感じました。これは 2006 年当時、この映画を弊社で英語教材化（『映画総合教材「プラダを着た悪魔」』神谷久美子／Kim R. Kanel 編著、2010）しようと企画する決め手となった場面でもありました。

そして 2015 年、新たな編集・構成による同作品の英語教材化を企画することになります。編著者の角山照彦氏が、映画公開当初からこの作品が英語教材に適していることに着目し、自作の原稿を使って授業で教えながら、その原稿に改訂を加えていることを伝え聞いていたからです。

角山氏の著書に『映画を教材とした英語教育に関する研究』（ふくろう出版、2008）があります。同書は映画を使用した膨大な数の教科書の出版の歴史を丹念に調べあげ、具体例を示しつつ映画を使った効果的な英語の

指導法とその問題点を惜しみなく説いた良書です。その中で、映画全編を扱った教科書について、「いわゆる言語演習中心」のものが多く、リスニング指導と異文化理解の視点に立った映画教材が少ないことを訴え、同時にその必要性を説いておられます。

このような同氏の研究が生かされ、「コミュニケーションを重視した指導」の視点に立ち、「ナチュラル・スピードで話される authentic な英語に触れさせることが可能である」といった映画使用の利点（前掲書）が存分に発揮されているのが、今回取りあげさせていただく『「プラダを着た悪魔」で学ぶコミュニケーション英語』です。

本書は、110 分から成る映画スクリプトを 12 回（1 章約 10 分弱）に分けて構成しています。特定の文法と表現に焦点を当てる形式を毎章とっていますので、そのあたりを中心にご紹介します。

例えば、登場人物たちの英語表現の確認。ミランダが頻繁に使う「以上よ」（“That's all.”）など、映画から実用英語表現を初めて学ぶ側からすると新鮮なものばかりです。この表現練習の後には、音の同化を始めとする実際に聞こえる音の例を挙げ、発音練習させるのも本書の特徴です。

映画本編は、視聴覚指導において重要な約 1 分～3 分弱のシーンを字幕なしで視聴します。その直後、ストーリーの大意をつかませ、同シーンをナレーターによる収録音声を聞いて空所補充し、そのうえで音読練習をさせます。

そして文法のポイントの紹介です。Unit 1 で取りあげるのはミランダの “Before today, you had never heard of me.”（過去完了形）。過去完了形と現在完了形の

違いを図解と明快な解説によって説き、このセリフ自体の文脈がわかるようになっています。ここで完了形という英語の難関を一定程度クリアさせておくことができるのではないのでしょうか。

次は表現のポイントです。同じく Unit 1 では、アンディの “Thank you for your time.”（別れ際に使える表現）。改まった場面では “See you.” ではなく、こうした表現を使わねばなりません。実際に英語で話をした経験のない人にはわからないものです。この発展問題では、実際に映画のワンシーンを取りあげ、この章で学んだ表現や文法を含む会話を完成させる作業をさせて章を終えます。

毎章最後のコラムも楽しみの一つです。Unit 4 では、アンディに対して、ナイジェルが “You only deign to work.” とたしなめます。このセリフの裏側が明かされるのですが、ただ映画を流し見しているだけでは決してわからない、「へえー」という驚きがあります。

是非一度、本書を手にとっていただけたら幸いです。

森 有紀子（松柏社）



## ■会員専用ページ（会員管理システム）

「会員専用ページ」は本部ホームページのトップから「会員管理システム」へログインにご利用ください。

<http://atem.org>



会員管理システムでは、メニュー「個人のページ」「個人の会費納入状況」「大会情報」「紀要情報」から  
 ・個人情報の更新 ・会費納入状況の確認 ・全国大会の研究発表応募と参加申し込み ・紀要への論文投稿  
 が可能です。 ※不明点は本部事務局へお問合せください。

## ATEM Clapper Board



1. ATEM は論説資料保存会に加盟しており、紀要『映画英語教育研究』は学会外にも公開しています。公開内容は下記 URL からご覧いただけます。  
<http://www.ronsetsu.co.jp/>
2. 京都外国語大学の国際言語文化学会が6月25日（土）に主催する特別講演会をATEMが共催することになりました。詳細は追ってお知らせします。

3. 2016 年度会費（4/1～翌 3/31）5000 円の納入をお願いします（納入期限：6/30）。同封もしくは郵便局備え付けの振込用紙（青色）をご利用の上、下記口座へ納入ください。個別の納入状況については、本部ホームページ内にある「会員情報システム」（この頁の上部参照）で確認が可能です。2 年以上滞納された場合には、会員資格を失いますのでご注意願います。

ゆうちょ銀行：00820-3-1477  
 口座名義：映画英語教育学会事務局  
 ※通信欄に「〇〇年度年会費」と明記ください。

事務局 [office@atem.org](mailto:office@atem.org)

## <賛助会員一覧> (50 音順) 2016.1.1 現在

株式会社朝日出版社  
 株式会社アルビス  
 株式会社金星堂  
 株式会社近代映画社  
 国際トラベル京都  
 シードラーニング株式会社  
 松柏社  
 株式会社成美堂  
 センゲージラーニング株式会社  
 株式会社ネリーズ  
 ピアソン・ジャパン株式会社  
 広島工業大学学務部 MM 準備室

## ～編集後記～

- ・ATEM Newsletter は、No.28 よりカラー版で発行されております。バックナンバーは No.24 よりホームページ掲載の PDF 版にてカラーでご覧いただけます。
- ・次号（No.31、第 22 回全国大会特集）は 10 月発行の予定です。これに伴い、全国大会では記録撮影を積極的に行ないます。

[広報委員会] 2016.1.1 現在

委員長：松田 愛子（北海道）

委員：田口 雅子（北海道） 杉浦 綾子（東日本）  
 井土 康仁（中部） 衛藤 圭一（西日本）  
 鶴田 知嘉香（九州）